

月報

岡崎の教育

昭和48年度～昭和49年度
(No1～No22)

岡崎市教育委員会

~~研~~ ~~文~~ ~~社~~



昭和48年度



創刊にあたって

ここに、ようやく「岡崎の教育」が創刊された。岡崎市一千の教職員の間、交流の広場というには、あまりにもせまきであり、またみすばらしくもあろう。しかし、この「狭い広場」に托したわたしたちの夢は、けっして小さくも貧しくもないつもりである。

たとい、大気は汚染されているようにとも、ここにだけは、さわやかな新風を吹き通わせたい。

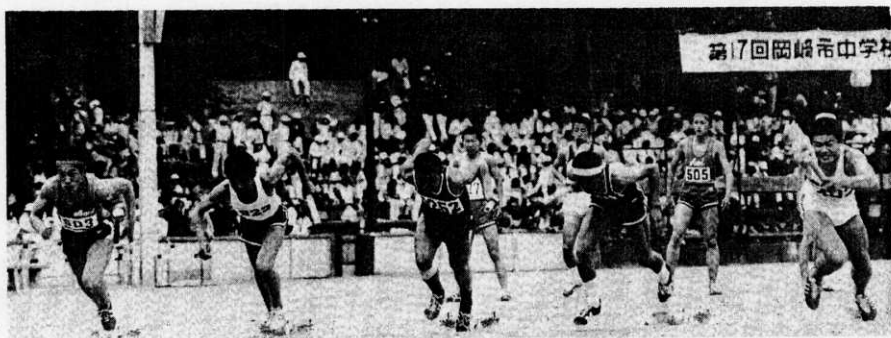
たとい、自然が破壊されているようにとも、いや、破壊されているからこそ、ここでは、子供の本来の生長を考えたい。

たとい、「ホンネ」を「タテマエ」でいにくるめるのが世の常であろうとも、せめてここだけでは、「ホンネ」を「ホンネ」としてぶちまける場でありたい。いずれにしても、単なる広報機関にはしたくないのである。まして、形ばかりの広報機関などには、かりにもしたくはないのである。

学制発足以来百年の歴史の中で、はたして、日本の教育は進歩をつづけてきたのであろうか。きらびやかな進歩のよそおいの下で、思いもかけない腐敗と墮落が進行していたのではなかつたらうか。いまこそ、わたしたちは教育の原点を見すえ、軌道の誤りを正し、日々に新しい歩みを進めるべき時であらう。

わたしたちひとりひとりが、率直に自らを省み、謙虚に他に学び、互いに交流しあい、啓発しあい、協力しあうことこそが要求されているのである。

この「岡崎の教育」を、そうした教職員の自己教育、相互教育の場として、育てていきたいのである。育ててほしいのである。育ててほしいのである。



昭和48年6月20日
編集・発行
岡崎市教育委員会
印刷
研文印刷社

今日のわが国の教育の普及充実は、世界の中でも最も高い水準にある。先日のテレビのニュースによると理科の学力は、世界の主要国のテストの結果、小学生、中学生ともに一番よかったということである。

これは国民の教育に対する伝統的な熱意と教育関係者の不断の努力によるものと思う。

私も市長に就任して以来、市民から数多くの要望や陳情を受けてきた。中でも、学校施設の充実は当事者はもちろんのこと



まちづくりは

人づくりから

岡崎市長 内田喜久

と学区ぐるみの熱心さである。

前年度は国庫補助と起債のワクからはずれた中学校舎を岡崎育英会に委託し、四中学校を改築する特例事業を実施した。

この画期的な事業は、その後の建築資材の高騰、教育効果を考えると、メリットは大きかった。本年度も一般会計の二六、一％にあたる三十億三千五百万円余を教育費に充て、施設の充実と教育の振興に力を入れている。

しかし、教育は施設のみで効果があがるものではない。

教育の目的は、人間の形成と個性の伸張にある。戦後のわが国の教育は、ともすれば知的教育に偏し、人間形成という面がおろそかになり、公德心や社会連帯意識がうすれてきた。今日都市における人間性の回復が強くさげばれている。次代になう青少年には、知、体、徳のいずれにも恵まれた教育がなされなければならない。

岡崎市は由緒ある歴史と伝統、香りがよい文化、恵まれた自然環境の中ではぐくまれたまちである。私は、このまちをさ

らに魅力と気品のあるまちとするため、市民運動五つのテーマを提唱し、「緑と太陽の福祉文化都市」を指標に努力してきた。

このよいまちづくりを進めるのは人であり、人づくりが根本である。人間形成で一番たいせつな時期を預かる教員諸賢に期待するところ大である。



教育の本道を期待して

教育委員長 内田克治

一千有余の岡崎の先生方が、その情熱と淑知とを傾けて日夜精進していただいていることをありがたく思っております。教育という地味で、かけがいのない営みが、先生方によって続けられているわけです。岡崎の、日本のあすになう世代は、先生方の努力によって育てられているのです。

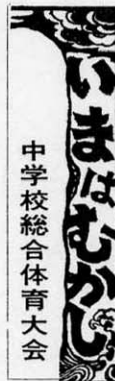
このたび、「岡崎の教育」という機関誌が先生方の手によって発刊される運びとなったことを、この上なくうれしく思います。

本誌は、岡崎の先生方の尊い毎日の営みの中から生み出されたものとして大きな期待を持つものであります。本誌の累積によって、岡崎の教育の歴史が綴られていくこととなります。これによって、教育の本道が開かれていくことを期待するのです。

現在ほど、自己を厳しく見つめることを要求されている時はないと思います。人それぞれの自己追求によって、人の道が広く深くなっていくのです。岡崎の先生方ひとりひとり、この「岡崎の教育」を契機として教育者としての道を深められ、広げられることを願うものです。

「住みよい岡崎」といわれるのは、いいたい何なのでしょうか。緑豊かで、文化の薫り高いものがそれであるとすると

らば、この「岡崎の教育」こそ、郷土に芽生えた教育文化活動の一環として、たいせつに育てあげなければならぬものと考えます。岡崎の教育者が、その旺盛な探究心によって、その紙面を飾り、教育の華を咲かせてくれることを心から期待してやみません。



中学校総合体育大会

■教委杯のころ

市教委発足の翌年、昭和二十八年春から、「教育委員会杯、中学校体育大会」としてスタートした。陸上、バレー、テニス、野球などの種目が、岡崎公園会場内ですべて実施された。選手も応援団も一場に会して行なわれるところに意義があったわけである。

■優勝旗できる

昭和三十三年、新学制十周年を記念し「中学校総合体育大会」と改称され、総合優勝校に優勝旗が授与されることになった。白生地に、羽田前教育長の筆で、「優勝」の文字が鮮かに書き入れられた。後に、総合優勝旗は大規模校独占の弊を避けるため、種目別優勝旗として生まれ変わった。

それ、そこに、なにかが

後藤金好

実践の眼目、実践の要諦といったものは、つきつめていけばいくほど、簡単に平凡なことに煮つめられていくものらしい。百家争鳴、百人百説の賑かさには、花園の華かさは求めなくても、田畑の実りは期すべくもない。まして、虚説・盲説の横行は、百鬼夜行の姿でしかあるまい。

「人間の学習行為は入れることと出すことのくり返しである点で呼吸や食事と似ていますね。つまり『見る・聞く・読む』という経験で知識を吸収するのが第一段階です。それだけでやめてしまえば精神の絶息または糞つまりになります。吸収した知識を自分の理解力、判断力、知恵に変えて『書く・語る』という行為で外部へ表現しなくてはならない。これが第二段階です。これら両段階のくり返しと積みかさねが学習の基礎だと思おうのですが、一般にこの基礎すら仲々思うようにできない弱さがある。」——むのたけじさんの語りかけたことばである。

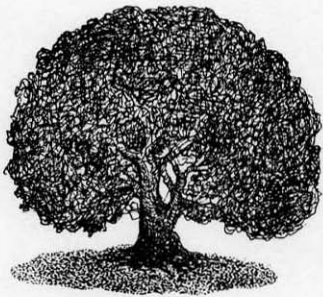
わかつている、とてもいいたけな人びとに、このことばの持つ重さが、多少とも感じとられているのか、どうか。ここ数年來、わたしはこの第一段階を「認識過程」とし、第二段階を「表現過程」とし、さらに、第三段階として「組織過程」を設定し、この三つの過程の往復運動・循環運動のうちに、あらゆる学習活動・教育活動の方法を本質的に捉えなおそうと試みてきた。わたしのその「悪戦苦闘のドキュメント」は、人びとに訴えるものにはなりえなかった。それだけに、むのさんのこのことばは、ずっしりとわたしの胸にこたえてくるのである。

ところで、こうした「学習の基礎」の上には、「たいまつ」運動を展開しているのが、むのさんたちなのである。したがって、わたしのいう「組織過程」にこそ、むのさんたちの運動はかけられているのはいうまでもない。ところが、そうであるのに、というよりは、そうであればこそ、むのさんは「できるだけ明瞭に、できるだけわかりやすく語ろう、書こう」とい

うことを、日ごろの自戒とされる。何という平凡さ、何という簡単さであろう。しかも、何という困難さであろう。考えてみれば、教育の困難さも、それに尽きるともいえそうである。

「乱立したスローガンのピラ」や「ぶ厚い運動方針書」などの「ああいう饒舌は、はじめから自分に戦意のないことを証言しているのも同然ですね」とむのさんはいってのける。そういえば、学校で作られる研究物の堆積も、むしろ、研究の貧困さの証言ではないのか、単なる教育廃棄物ではないのか。「思想が実践するときは一旬でたたかう」これ以上の何をいいようか。自戒するのみである。

(昭四八・五・三一)



花火をあげ、中日新聞より借りたはとを放したこともあった。

■北高会場のこと

昭和三十七年、北高運動場を中心に開催、このころには、種目もふえ、一か所で実施できなかったため、各中学校などに分散して行なわれていた。北高および葵中を使用すれば、同一地域で行なうことができるわけである。

この計画はこの年限りで打ち切りとなつた。次のようないきさつがあつたからである。

応援団、父兄も含め、一万人以上の人々が一か所に集結すれば、水道利用もかなりのものとなる。便所や電話の使用を考え合わせると迷惑をこうむるのは北高側であつたわけだ。

なお、この年、体育旗が作られた。現在使用しているものである。

■苦勞した話

陸上競技のプログラム編成は、ほとんど夜十一時、十二時にまで及んだ。三十円のパンをかじりながらがんばつた。役員たちは、さらに器具を揃えるのに苦勞した。市としてそれだけの運動器具の用意はなかつた。だから、各学校から借りて来なければならなかつた。

参加する学校側にも苦勞があつた。たとえば、六ツ美、常磐地区などの遠隔地の場合、生徒輸送は大問題であつた。

(神谷四士保校長談より)

期日	五月十五日
会場	井田小学校
司会	権田梅芳校長(美合小)
出席	大塚美鈴教諭(根石小)
	堀田道夫(恵田小)
	吉川文昭(愛宕小)
	菅原秀美(竜海中)
	水野旬子(矢作中)

先生になった動機

●先生の道を選んだ動機は何か。

A 人を愛したいから。

B 中学校時代の生活がいちばんよかつたと思います。その思い出を繰り返す手つとればやい方法として教師の道を選びました。

C かけがえのない、やりがいのある人間生活を送りたいからです。それには教師がびつたりであると思われまます。

E 子どもたちとともに、勉強したり、遊びたいからです。

E 特別にこれと言った動機はありません。まだ、はっきりした形としては表われてはいません。でも、やめる時には、その形を示してやめたいものだと思います。

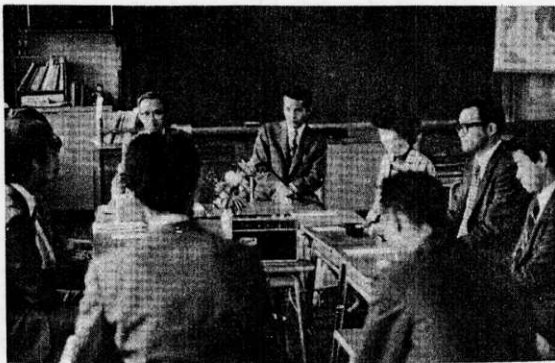
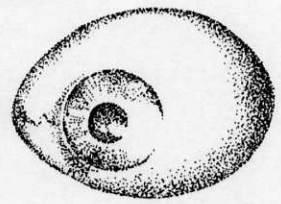
現代つ子泣き笑い

●子どもにも感動したり、意外に思ったりした場面はなかったらうか。

C 十五人のまとまりのあるクラスで、そのため仲が良く逆に頼り合っしてしま

新任教師

大いに語る



いやすいような気がします。まとまりすぎると、自分のものがなく、人に頼ってしまう弱さがあるんじゃないでしょうか。

A 二年生で、四十三人担任しています。

さまざまの子どもがいて、すごく元気がいいのです。その反面、かげにかくれてしまった子どももいます。

からだがり弱で、精神力も弱いのです。たとえば、登り棒を登らせたが、しまいは、頭が痛くなり、吐き気をもよおしてしまつた子どももありました。

B 二年生十九名の担任児童の中にもさまざまなお子どもがいます。算数の時、どうしても、にが手意識が出てできなくなつてしまつた子どもがいます。問いつめると涙が出ちゃうんです。数字が口もとに出てくるんですが、答えとはならないんです。そのためか、それからあとは、まるつきりだめになつてしまつてしまつた子どももいます。一つの失敗が、あとあとまで影響することのあることがわかりました。その反面、全然影響を受けない子どももいるのです。

F 中学校の場合ですと、小学校の生活が抜けきらず、それを、相当強く叱つたら涙をためていた男の子がいます。服装のだらしない子ども、何にでもだらしない子ども、ちよつと叱ると登校しなくなつてしまつた子どもなど、実にさまざまです。どの程度叱り、また、ほめたらよいか、まるつきりわか

りません。A 小学校の子どもたちは、どうい生活をし、どうい勉強をしているのかわかりません。それだけに、子どもたちとのすれ違いを感じています。担任としては真剣になつたつもりでも、その子にとっては切実なものとなつてはねかえつていってはいないのです。「ああ、すばらしいなあ。」と人間らしさを、子どもにも感じる場合と、まったく動物と変わらないとさえ思ってしまう場合とがあります。

D 私もそのひとりなんです。教師として、一から十まで押しつけ、要求することが多すぎるような気がしています。そのギャップを、はたして、授業だけで埋められるものでしょうか。体育とか、放課の時間などで補うべきではないでしょうか。その時間は、本当に、子どもと一つになつたような気がします。

向上への転機

●これまでの話では、意外に子どもにも悪い面が多いことが話された。ところが

E 昨年、私の学校に吹奏楽クラブが生まれました。ところが、担任してみると、まったくだらだらして、やる気がない。そのうち、中学校総合体育大会に市内各学校のブラスバンドが出るため、南中学校で合同リハーサルを行なうことになりました。初めのうち、「そ



んなことつまらん。」と言っていた生徒たちでしたが、半ば強引に参加させた結果は、他校の生徒から刺激を受けたのでしょいか、それ以後は、まるつきり違ってしまったのです。練習にも積極的に参加するようになり、練習自体にも熱が出て来たのです。このことから、強引であっても、良いことはやらせることがある程度必要であると強く感じたのでした。

学校よき ありがたき

●次に、学校全体について、描いたイメージと現実とのくい違い、失望、驚異、感動などの事例を話してもらいたい。

C いなかの学校に配当されました。最初はどんな所かと不安でなりません。子どもと、先生たちは、イメージ以上に良かったと思っています。仕事の面では、係り分担がものすごく多い。たとえば、体育と算数の二教科の主任を受け持たされるといったぐあいです。給食は、ひとつのへやで全校正座して食べています。みんなといっし

よに食べることの良さを味わいました。清掃は、二年から六年生まで、二・三人で共同して行なっています。小さい学校でしかやれないやり方をしているわけです。職員室のイメージは明るくて、何でも話のできるふん囲気です。

E 小学校時代は、職員室というものはまったくいやなイメージだったんですが、その職員室にひとりではいつて行ったのですが、そんな感じは少しもありませんでした。先生がたは、みんなテキパキと仕事を処理していられるので感心しているだけです。これまで持ち続けてきた先入観とは、まるきり違うなと思います。

B 小さな学校の場合、新任でもいろいろな主任になれることは、先ほどの話のとおりです。それを他の先生がたが助けてくださる。うれしく、ありがたく思っています。まったく家族的ということはそのままなんです。たとえば、こんなこともありました。学校管理案を作る時のことです。助けてくれというので、日曜日も返上してつだつてあげました。そのおかげで、学校管理案というものの作り方がわかったのです。新米の教師が、学校組織について、多少なりとも知ることができ、参考になりました。これは、家族的な小規模校ならではのことであると思っています。それに、子どもたちもお互いに連帯感を持っています。地域的なつながりは、まるで兄弟みたいで

す。おもしろいのは、ほとんど同じ姓であるために、名まえを呼ばなくては大めだということ。地域まで引つくるめて一つの家族ということができません。

A 学年で二百人を越すような大きな学校の場合、学年の子どもの名を全部覚えるということはできないね。ある特定の子ども名を、担任の先生を通して知る程度です。学校の職員室の中の存在を覚えてみても、自分が何のためにあるのか、どのような価値があるかがわからなくなってしまうことがあります。

F 中学校の場合、あき時間の先生があまりです。そういう先生が、よく授業を見てください。授業について教えられる機会が多いことに感謝しています。

D 大規模校の良さは、いろいろな面であつかり合うものがあるということだと思っています。学力だけではなく、他の面でも、そうした面を生かすようにしたいと思っています。

B 小さい学校で心配な点は、他の学校と比較することができないということです。どうしても、自分だけに甘んじてしまいます。学年が上がるにつれて前の担任の悪さがすぐに表われます。教師自身の心の甘えが、次の段階では欠陥として引き継がれるわけです。責任が大きいと思います。

D 子どもたちには、それぞれ責任を持たせるようにしたいね。たとえば、叱

り方、ほめ方を中途半端にしているはいけないと思うようになりました。叱るなら本気で叱る。本気なら素直に反応してくれます。四十一人なら四十一人の反応があり、その一人一人の反応を大事に育ててゆきたいと考えています。

●叩けよ、しからば開かれん。自ら積極的に求めてほしい。未知の不安の解決は、扉を叩くことからスタートする。





【刊行あんない】

- 「千枚綴」兵藤三平著
含蓄に富んだ人生随想。全百話のどこにも教師の生きがい、生き方の示唆がある。残部あり。(研文社)
- 「自ら学ぶ能力」石川勤著
筆者は刈谷亀城小校長。実践の中で探究した学び方学習のあり方、方法をわかりやすく

一学期の研修計画

次々に研修会、講演会

県外研修に班編成も

ことしの重点目標としながら出かけていた「研修」。それが六月にはいり、各組織が整備されるとともに活発な動きをみせている。以下はそのうちの団体研修関係の概況である。

■新任教員研修会

教師の自覚も、基礎的な指導技術も一学期中にみっちりという要望もあって、次のような多彩な計画。

- 四月二十日 郷土学習の会
バス二台で市内の学校、史蹟等の見学。親睦の機会にも。
- 五月十五日 話し方研究
童話を取り入れた授業の参観と校長先生の講話(井田小)
- 六月十三日 板書の書き方
講師に教育大神谷葵水教授。板書文字の基本練習(連尺小)
- 六月二十日 教育機器

説明。(黎明書房)

- 「矢作の里」矢作地区小中学校合同研究会編
千年の昔から三河の中心として栄えた矢作地区の歴史と地理を小中学生向きに編集。おとなにも楽しい郷土資料。
- 「愛知のむかしばなし」愛知県郷土資料刊行会編
現場の教師も参加した民話集
演要旨は次号掲載予定)

■県外研修視察

各方面の格別のご尽力、ご配慮もあって、人数二〇〇名、補助額一人六〇〇〇円、いずれも昨年に比べて大幅増。教職員の研修に関する委員会の試案もとに六月八日参加者全員の打合せ会を竜海中で実施。

研修方法として、これまでの個人的な視察と併せて、教科でまとめた班編成によるもの、異なる教科領域をまとめた混成班により学校経営を全面から視察するものなどが本年度の新しい試み。六月から来年一月にわたって実施される。

- 岡崎童話研究会
五月二十六日、岡崎女子短大での全国童話人協会の総会の出席者(全国代表)を講師に、市内二十校で童話会を開催。さらに、同日午後童話と児童

文化財をめぐる研究講座がもたれ五十余名の小中の先生方が出席したが、これを機会に、宿願であった岡崎童話研究会が井田小川島校長の指導で発足。発会式は六月二十三日婦人会館で。講師にCBCアナウンス部長加藤明康氏。(事務局井田小)

愛知県社会科研究大会

「基礎能力を伸ばす指導の系統」を主題に、六月二十二日午前九時三十分から羽根小、南中。当日は、午前中両会場で学年ごとの公開授業、分科会、午後は羽根小で引き続き分科会のと。東京教育大教授和歌森太郎先生のご講演「現代の社会科歴史」。全三河社会科の総力を結集したメンバーの研究への期待と、「日本史の虚像と実像」など多彩な著作活動で知られる講師の魅力は大きい。

東海北陸中学校長会

愛知大会

東海北陸七県から八五〇名余の中学校長が参加されるジャンボ大会。地元岡崎の中学校長会の準備も既に一年がかり。いよいよ七月五、六日、主会場市民会館のほかに市内七会場が研究、協議、講演(山岡荘八氏)見学など、多彩な内容の大会が繰り広げられる。

おりしも青葉の季節、遠来の先生方に「家康の町岡崎」のたすまいは、そして教育はどう映ることか。

六月九日(城北中・連尺小)各ブロックの精鋭を集め、例により盛んな応援もあって、悲喜こもごもの熱戦を展開した。

【バレー】(準決勝)六ツ美2-1南・福岡、城北2-1美川・河合(決勝)城北2-1六ツ美、城北ブロックは8連勝。

【ソフト】(準決勝)常香岩4-1六ツ美、南福6-3甲山、(決勝)常香岩2-1南福、常香岩ブロックは2連勝。

教職員球技大会

昭和四十九年度
愛知県公立学校教員募集

1. 採用対象 小・中・高校教諭、盲・ろう・養護学校教諭、養護教諭
2. 受験資格・教員免許状を所有する者・昭和四十九年三月取得見込の者
3. 採用試験・時七月二十七日・二十九日・所一名古屋市内の県立学校・受付六月二十二日・七月七日

※ 願書、要項の請求は県教委教職員課へ

選書

目・耳・足

読書とみえ

五十冊ほども持つてくる。びつくりしちゃう。

手あたりしだいで、おもしろいと思うものは、何でも読んでしまう。

あま、このころは新刊を追っかける気はなくなってきた。

今の二十五、六の青年の読む本と、自分らが読むものとは、はっきり区別があるな。

小学校の先生は広くて浅くてもいい。若い人が本を読まなくなったのはなぜだろうか。忙しいのは理由にならんと思うね。昔は「立川文庫」から読み始めたものだが、「そこに本があるからおもしろくて読むんだ」というところから出発していると思う

よ。教員の中で読まん人は、「立川文庫」の興味を知らなくて出て来たのじやないかということだな。義務だけ読んで読んどのんだな

義務で読む本はおもしろくない。研究的にいけば専門書になるし、ぼくなんか読んだのは娯楽しかないな。清水幾太郎は娯楽と研究と教養と三つをあげている。教養が問題だ。つまり、娯楽は楽しいから読むだろう。研究は自分の仕事と直結しているからね。それはいやでもやっていくけどね。

若い時はみえで読まなければだめだと思っうな。

いや、みえで読ませる背景すらなくなってきたんじゃないかな。

二十三から三十一の時だったかな。先輩がストーブの回りて本の話をしている、自分は後ろで手帳にみんな

ひかえた。だから先輩は、みえが手伝いながら、ちよつとこの本おもしろかったとか、みんな言ったわけだ。今はどうだ。ストーブ談義なんかでほとんど本の名のみえを張る場がないね。

わかるわからんは別として、今、読んだだけのことはあるね。

このみえのムードがなくなつたことは、考えてみる必要があるね。

「ユダヤ人と日本人」の発想はおもしろかったな。

「歎異抄の世界」(五巻)はいいですよ。「歎異抄」にも、ずいぶんいろいろなものがあった。

読書の終着は、漢籍と仏典だと聞いたが、このごろほんとうだと思つた。最近中国古典を味わえるようになった。

紀野一義の本など抵抗なく読めるね。梅原猛のいいね。

しかし、現代の若い先生が同じ道をたどるかどうかはわからないね。

読書放談

読書の勧め

良書紹介

- 「子どもを生かす力」 (東井 義雄)
- 「坂の上の雲」 (司馬遼太郎)
- 「ある風景との対話」 (東山 魁夷)
- 「数学の世界」 (遠山 啓)
- 「天皇の世紀」 (大仏 次郎)
- 「隠された十字架」 (梅原 猛)

「私の進化論」 (今西 錦司)

「人間と植物」 (宮脇 昭)

「まちがい栄養学」 (強い子どもを)
「作る栄養と食物」 (川島 四郎)

「人生雑話」 (荻野 円戒)

「火の国の女の歴史」 (高群 逸枝)

「文明の顔・未開の顔」 (中根 千枝)

「ことばの歳時記」 (山本 健吉)

「すばらしい人間教育」 (佐藤 瑞彦)



大佛次郎

天皇家の世紀

黒船

若い教師よ どう生きる

精谷正孝校長(六名小)、山本忠男校長(矢西小) 神谷卓爾校長(岩津中)の鼎談記録です。

・記録(牧・熊谷)・文責(編集部)

6月の行事

日	曜	行 事
1	金	特殊教育推進協議会総会（連尺小） 附中研究会
2	土	中学校生徒会河川美化総決起大会
3	日	
4	月	前期教育実習（6/16日まで） 市主事訪問（竜谷小）
5	火	附小生活教育研究会（5・6日）
6	水	学校給食主任者講習会
7	木	
8	金	市PTA総会（甲山会館） 県外研修全体打合せ会（竜海中）
9	土	教職員球技大会（城北中・連尺小）
10	日	
11	月	現職教育研究事業費説明会（六名小）
12	火	小学校体育実技講習会（豊橋、13日も） 市主事訪問（男川小）
13	水	新任教員研修会／板書指導（連尺小）
14	木	
15	金	
16	土	仲新先生講演会（葵中）
17	日	
18	月	教育委員会 市主事訪問（矢作北小）
19	火	研究委嘱校打合せ会（岩津中）
20	水	校長会（大樹寺小） 新任教員研修会（婦人会館）
21	木	市教育委員学校訪問（矢作西小・六ツ美中）
22	金	愛知県社会科教育研究会（羽根小・南中）
23	土	特殊部会春日台養護学校見学
24	日	
25	月	教科書展示会（梅園小）7/10日まで 市主事訪問（矢作東小）
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	

六階の窓



▲：六枚花弁の白く気高い鉄せんが部屋に薫風をよぶ。朝の静寂は、おびただしい来客とめまぐるしい仕事の回転によって破られる。校舎建築問題の陳情、学校敷地の選定と現地調査、竜泉寺かま跡の保存対策。さまざまな話題で教育長室はにぎやかである。

▲：一方、事務局の大部屋にはぎつしりと八〇名の職員がひしめき、何ともあわただしい風景である。特に今年度の特色は、各種プロジェクト・チ

ームの打合せ等が続いていることであるといえようか。各種研修計画の打合わせ、グループ研究の連絡、研究委嘱校打合わせ、県立普通高校署名打合わせ、河川美化運動の打合わせ、県外研修の手引きや資料づくり、現職教育指導助言者名簿の作成等々、会議が続き、現場の先生方の往来も活気に溢れている。六階の窓から緑の丘の景観が眼にとまるようになるのは、七月からであろうか。

編集後記

●：月報「岡崎の教育」創刊号をおとどけする。題字を市長さんからいただく。分刻みの激務の中、心をこめて書いていただいた。町づくりの根本は教育にとされるご寄稿とともに味わっていただきたい。

●：それにしても、発刊の辞にあるほどの高さや純度を全紙面に保ち得たかどうか心もと

ないが……。

●：学校、学級で生まれた刊行物、印刷物を本誌を通じて紹介したい。編集事務局（学校教育課）までお送りいただければありがたい。

●：たぶん、この号を印刷し終わらないうちに第二号の編集にかかることになろう。月刊はあわただしいが、編集部一同張りきっている。ご意見、ご希望をお待ちしている。なお、本誌のカットは、美川中福田定夫教諭の力作である。